

## WAM 助成事業報告会：参加者アンケート結果の分析



開催日時：令和 8 年 3 月 15 日（日曜日）

開催場所：県電ホール

参加者数：106 名

テーマ：

事例報告：訪問看護ステーション 4 事業所の訪問型伴走支援の事例

基調講演：家庭に寄り添う支援が拓く、不登校・ひきこもり支援の新たな地平

パネルディスカッション：

不登校・ひきこもり支援の行政・教育・医療・地域の関係機関による実践共有

### 報告会アンケート分析内容

#### 1. 開催概要

回答者数：65 名

#### 2. 参加者属性

今回の参加者は 40 代（約 34%）を筆頭に、30 代～60 代の幅広い層から構成されました。居住地は宮崎市（約 78%）が中心であり、情報到達経路としては「ちらし」と「知人からの紹介」が大きな割合を占めています。

項目	回答
性別	女性 (38 名)、男性 (24 名)
年代	40 代 (22 名)、50 代 (13 名)、30 代 (9 名)
居住地	宮崎市 (51 名)、都城市 (6 名)
認知経路	ちらし (21 名)、知人 (17 名)、その他/学校配布 (14 名)

### 3. プログラム別評価

全体として、約7割～8割の参加者が「満足」以上と回答しており、企画内容への評価は非常に高い結果となりました。

#### ■ 基調講演（満足度：満足以上 約73%）

主な評価理由：「不登校は生存戦略」という新たな視点、具体的なデータに基づく解説、支援へのアプローチ方法など、内容の専門性と気づきの多さが評価されました。

#### ■ パネルディスカッション（満足度：満足以上 約81%）

主な評価理由：異なる立場（教育・医療・福祉）のパネラーによる多角的な意見を聞いたことが、実務や理解に繋がったという意見が多数見られました。

### 4. 自由記述欄の要約と今後の課題

#### 【主な評価ポイント】

- ・視点の転換：不登校を否定的に捉えず、子供の主体性を尊重する考え方に感銘を受けたという声。
- ・連携への期待：訪問看護の重要性や、各機関が手を取り合うことの必要性が再認識された。
- ・継続要望：「今後もこのような学びの場を継続してほしい」「孤立する家庭への光になる」といった応援のメッセージ。

#### 【改善すべき課題】

アンケートでは運営面（ユニバーサルデザインの視点）において、改善要望が挙げられました。

- ・視認性の改善：スライドのフォントサイズ、配色（見えにくさ）、会場後方からの見え方の再検討。
- ・音響の改善：マイクの音量調節、話者のスピード管理。
- ・会場環境：プレゼンテーション時の照明の明るさ調整。

### 5. 総括

本報告会は、不登校支援という社会的関心の高いテーマに対し、多職種が連携する重要性を提示した点で非常に有意義なものであったと言えます。参加者の満足度は高く、内容への信頼は得られています。

次回の開催に向けては、「情報の伝わりやすさ（音響・視覚資料）」のクオリティを底上げすることで、より幅広い層（視覚・聴覚に不安のある方を含む）に配慮した、質の高い報告会運営が可能になると考えられます。